

中速充電器「Pit-QCシリーズ」発売開始

～普通充電と急速充電を1台で“ちょうどいい” EV・PHEV用充電設備～

日東工業株式会社（本社：愛知県長久手市、取締役社長 黒野 透、以下 日東工業）は、EV・PHEV用の中速充電器「Pit-QC（ピット・キューシー）シリーズ」を発売し、受注を開始しました。

EV・PHEV用充電設備を導入する際、「短時間で充電したいが、コスト的に急速充電器は難しい」「急速充電器の設置スペースを確保できない」「再生可能エネルギーを効率よくEVに充電したい」などの課題があります。

中速充電器「Pit-QCシリーズ」は、基礎充電と目的地（継ぎ足し）充電のどちらにも利用できる「ちょうどいい」を実現し、事業所の社有車や運送会社のEV車両など、あらゆるシーンで利用できます。



●直流活用のエネルギーマネジメント

交流入力（AC）タイプと直流入力（DC）タイプの2種類をラインナップ。商用電源に対応した交流入力タイプ、蓄電池や太陽光発電の電気を効率よく利用できる直流入力タイプを取り揃え。直流入力タイプは、交流入力に変換せず使用できるため再生エネルギー電力を効率よく、無駄なく使用できます。

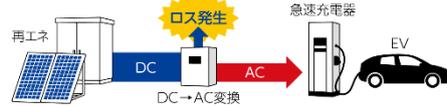
●業界最小クラスの小型設計で省施工・インフラ拡大を支援

設置スペースが小さく専有面積はわずか0.1㎡で、設置場所の選択幅が広がります。

●安全で快適に使える充電環境を提供

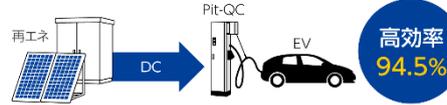
ケーブル吊り下げユニットを標準装備しており、手を汚さず充電可能で、見た目もスマートです。

【一般的な急速充電器】



一般的な急速充電器は交流タイプのため、直流の再生エネルギーを交流に交換し、再度電流に戻す際にエネルギーロスが生じます。

【Pit-QC直流(DC)入力タイプ】



Pit-QC 直流(DC)入力タイプは、直流の再生エネルギーを効率よく直接EVに充電することができます。



■機種一覧

納期区分	品名記号	入力電圧 (V)	出力 (kW)	寸法 (mm)			質量 (kg)	標準価格 (円)
				ヨコ※1	タテ	フカサ		
受	EVQ-A30	三相AC200・400	30 ※2	400	1,700	250	約120	1,980,000
受	EVQ-D30	DC230-750	30 ※3	400	1,700	250	約120	2,480,000

※1.突起部・ケーブル吊り下げユニット部は除く。

※2.三相 AC200V 入力時の出力は 18kW。

※3.DC500V 未満入力時は電圧に応じて出力は減少する。

■エネルギーマネジメントや課金などさまざまなサービスに連携可能な通信機能付タイプは、2026年に発売を予定しています。



使用イメージ

日東工業はEV・PHEV用充電器メーカーとして、2009年に国内初のケーブル付普通充電スタンドを開発するなど、普通充電設備のリーディングカンパニーであり、ケーブル付普通充電器市場において国内トップクラスの累計出荷実績（OEM供給含む）があります。これからも、国内充電インフラの充実およびエネルギーマネジメント技術を活用したカーボンニュートラルの実現に貢献してまいります。

【参考】 中速充電器は、急速充電器の規格 (CHAdeMO ver2.0.2) に準拠しています。

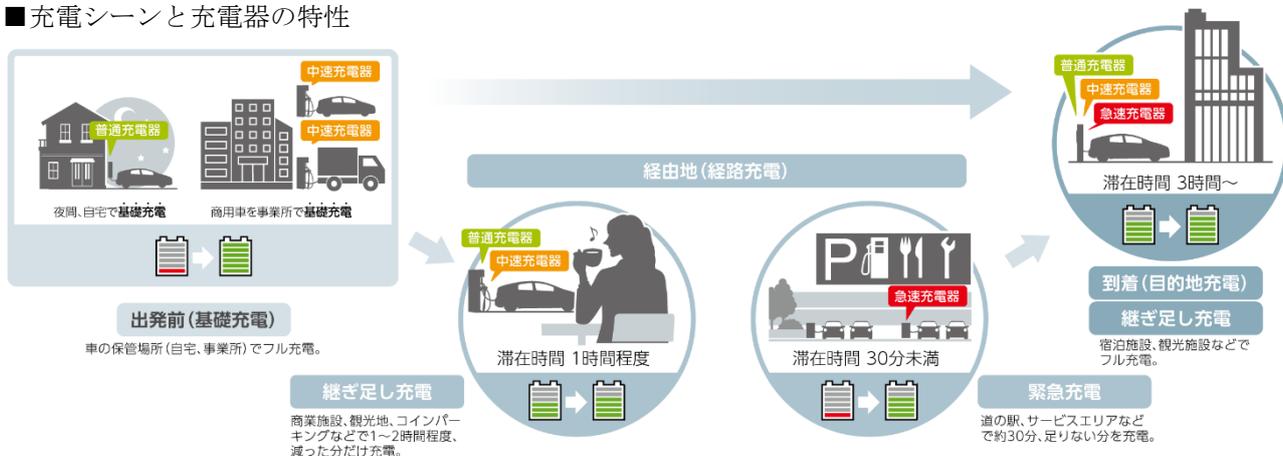
最新のCHAdeMO規格ver2.0.2で直流入力 (DC) に対応した充電器は本製品が唯一 (世界初※) です。

(※2025年9月10日現在、当社調べ)

■クルマの充電口



■充電シーンと充電器の特性



■充電設備の費用・メリット・デメリット比較表

	普通充電器	中速充電器 (Pit-QCシリーズ)	急速充電器
充電シーン	クルマを使っていない時間に 駐車場で比較的長時間 (数時間以上)	基礎充電機能と 目的地 (継ぎ足し) 充電機能 (1.5~4時間程度)	立ち寄り場所で短時間継ぎ足し (30分以下)
充電スピード (目安) ※1	バッテリー容量40kWh: 12.5時間 (40kWh÷3.2kW) バッテリー容量120kWh: 37.5時間 (120kWh÷3.2kW)	バッテリー容量40kWh: 1.5時間 (40kWh÷30kW) バッテリー容量120kWh: 4時間 (120kWh÷30kW)	バッテリー容量40kWh: 30分以下 (40kWh÷90kW) バッテリー容量120kWh: 1.3時間 (120kWh÷90kW)
充電設備 1台価格	15~60万円 パブリックモデルは高価	198万円 (AC)・248万円 (DC) (急速充電器より割安)	数百万円
バックヤードの 電気設備や 工事費 ※2	数十万円 通信に有線LANを使うものは さらに工事費増	数十万円~数百万円 条件によっては急速充電器用 キュービクルが不要となる	数百万円~ キュービクルの増設や新設が 必要な場合が多い
合計導入費用 ※2	30~100万円	200~500万円	500~1,000万円超
メリット	安い	普通充電器と急速充電器の 特長を併せ持つ 「ちょうどいい」タイプ	充電時間が短い
デメリット	充電時間が長い	普通充電器に比べると 設備価格が高い	導入費用がとて高額

※1. 仮にバッテリー容量40kWhのEV (日産LEAFのスタンダードモデル相当)、バッテリー容量120kWhのEVトラックをゼロから満充電にするために必要な時間を代表機種の充電器でそれぞれ算出。(バッテリー容量÷出力=充電に必要な時間)

※2. 工事費や合計導入費用は一般社団法人次世代自動車振興センター (CEV) の資料を参考にした。

- ・「Pit」は日東工業株式会社の登録商標です。
- ・本文の価格には消費税および地方税は含まれておりません。
- ・標準価格は弊社希望価格です。

以上